

城下町探訪 9

2009/5/28

地蔵清水の井戸

松本の町は源智の井戸に代表されるように湧水が豊富でいくつもの井戸を松本城下町の絵図に見ることができます。地蔵清水の井戸もその一つです。

写真は松本城外堀の北東隅道路の北側にあるカトリック教会の西、上野会計事務所の一面に写真のような「地蔵尊出現^{じぞうそんしゅつげんれいすいち} 霊水地」と書かれた記念碑が建っています。この石碑は昭和3年（1928）に建立されたもので、碑文は松本市初代市長^{おりよりなが}小里頼永の筆によるものです。



現在、平成の名水百選「まつもと城下町湧水群」のひとつとして水巡りの人々が訪れています。

この「地蔵尊出現霊水地」の碑はもともとここにあったものではなく、下の写真のように北及び東外堀^{いりすみぶ}の入隅部にありました。平成元年に実施された「都市計画道路宮渕新橋^{かみかひ}上金井線」の道路拡張工事とそれとともなう松本城北外堀外側土塁工事により下の写真に見える地蔵清水のコンクリートの「井筒」は撤去され記念碑は現在地に移されました。

記念碑の「地蔵尊出現」とはどういうことでしょうか。

このあたりは中世の頃は湧水が多いので^{どろまち}泥町とか柳の木が多くはえていたこ

とから柳町と呼ばれていました。また現在の地蔵清水のあたりには生安寺^{しょうあんじ}もあり門前では^{いち}市が立ち大変繁華なところでした。やがて時代が下って、天正10年（1582）小笠原貞慶^{さだよし}は父祖のゆかりの深志城を回復し、名を松本城と改め、天正13年頃から城下町の整備を始めました。その頃は「市の辻」^{いち つじ} 辺には庶民も住んでおり、小笠原氏は泥町や市の辻の町屋^{まちや}を女鳥羽川の南の本町へ移しました。そして総（惣）堀内をすべて武家地としたのです。このころ、生安寺も本町（パルコの辺）へ移されました。武家地整備中に市の辻に井戸を掘らせたところ、浄水とともに石の地蔵尊が掘り出されました。その地蔵尊には「文治四年（1188）戊申年九月四日」の記念名が刻まれていました。

以来、御地蔵様が出現した霊験あらたかな清水にちなんで市の辻の辺りを「地蔵清水」と呼ぶようになりました。

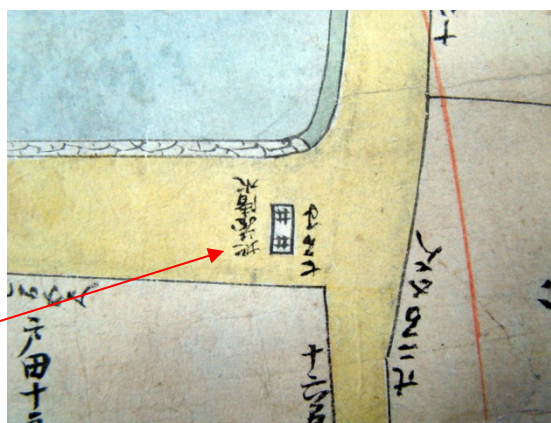
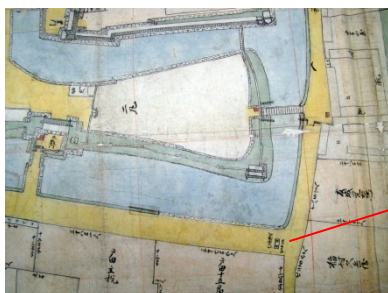


この地中から出現した地蔵尊は生安寺に安置され現在も拝観することが出来ます。(現在、生安寺は松本市蟻ヶ崎に移っています)



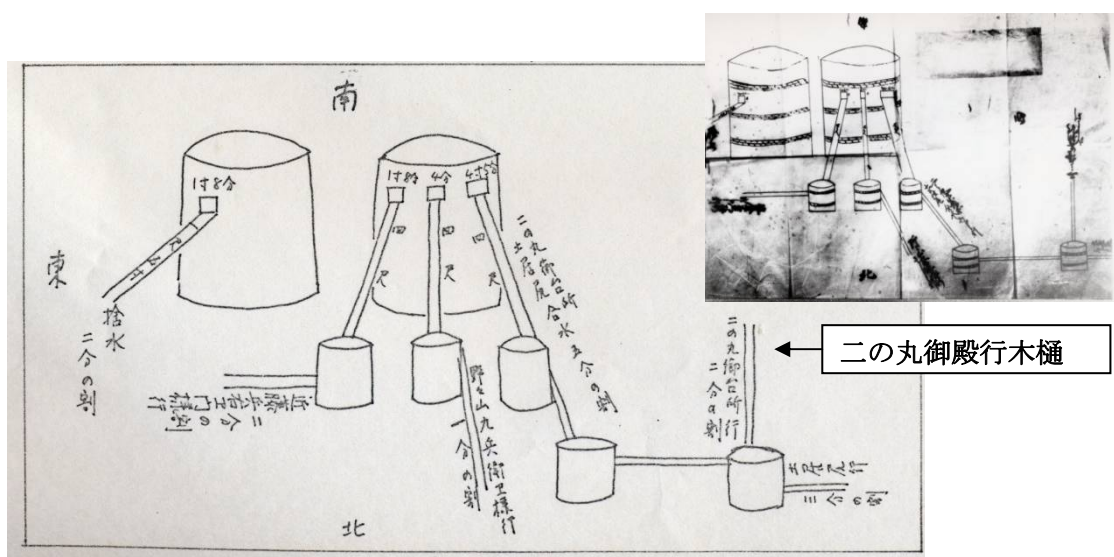
少し余談になりますが本町1丁目と2丁目の境界にある「牛つなぎ石」は越後から塩を運んで来た牛を繋いだ石といわれていますが、この石は昔、市の辻にあった道祖神であるというのが現在の見方です。(詳しくは「松本のあめ市 その歴史と起源 松本あめ市実行委員会篇147p～156p参照」)

下の「享保十三年秋改松本城下絵図」には2つの地藏清水の井戸が記されています。



この地藏清水の辻井戸がどのように使われていたかを示す嘉永4年(1851)の史料が残されています。(※「信州松本御城内地藏清水井戸分水之図」嘉永四年)

その文書によるとこの井戸の水は決められた量を木樋で地中を運ばれ、二の丸御殿や近くの武家屋敷、土井尻方面の武家屋敷に分水されていたことがわかります。



地蔵清水の井戸から分水された水は地下の木樋（埋 樋）を通り、裏御門橋を渡り、二の丸御殿敷地内に引きこまれて使用されました。城主の湯殿までこの水が引かれていました。



うずみ ひ もっかん
埋 樋木管



二の丸御殿井戸跡 ↑

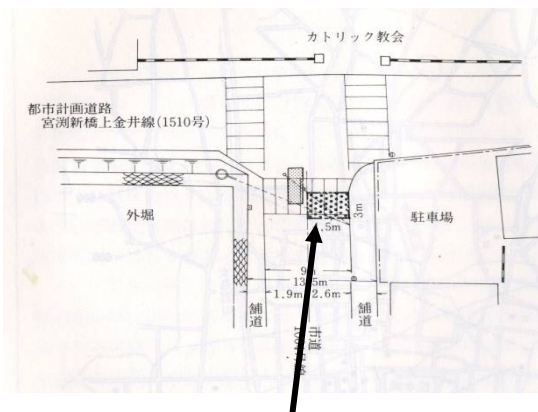
壁面埋樋穴 ↓

平成元年地中に埋もれていた地蔵清水の井戸が前述道路工事にともなって発掘され井戸遺構が確認されました。2つの井筒は横断歩道の地下に埋まっていたのです。

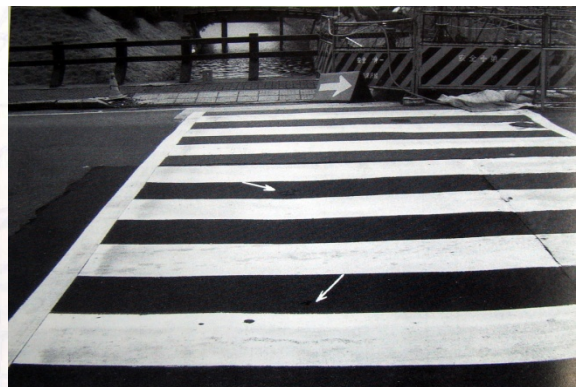
そして、発掘終了後、井筒のあった真上の位置に赤色のマークピンが打たれました。しかし、横断歩道上であり、その後、道路改良等が行われ、残念ながらこのマークピンは、今は見あたりません。



この井戸は廃藩後も利用されたと思われますが、明治末年、路上の井筒を廃止して、これから少し離れた外堀際に引水して井筒を据え、以来、平成元年まで流出する水量はめっきり細くなったそうですが「地蔵清水の湧き水」として松本の人々に親しまれて来ました。そして昨年、平成の名水百選「松本城下町湧水群」の一つとして位置づけられたのです。



地蔵清水の井戸発掘場所



マークピン（白矢印地点）手前が東側